

## 第2章 分析評価

### 1節 自殺に至った経緯

本調査委員会では、当該生徒（A君）における小学生時代からの情報を収集し、調査を行った。小学校時代のA君は、新聞社の読書感想文コンクールで受賞するような文章も書け、またトイレ掃除などの作業も率先して引き受けるような、非常にまじめで意欲的、そして几帳面な生徒であった。その後、中学校に入学し、平成23年11月に、生徒指導規程に基づく特別指導を受けることがあったが、態度も良く、立派な内容の反省文を仕上げた。この時A君から真に納得が得られていたのか、そして特別指導のやり方等に問題がなかったか否かは、それ自体検討を要する事柄ではあるが、その後、平成24年10月まで特に目立った問題行動は見られず、A君は意欲的に部活動を含む学校生活に取り組んでおり、約1年後に起こる自殺との直接的な関連性を認めることは困難であると調査委員会は判断した。

したがって、本報告書では10月29日の自殺に至る経緯として、10月5日の文化祭前日の出来事から検討することとした。但し、アンケート調査等から、比較的近い過去に起こった出来事として、以下のものが確認されたので、付記しておく。

③ 直接的な関連性だけを求め、「指導に問題がなかったか検討を要する」としながら委員会の検討対象から除外している

陳情書  
(工)

④ A君は数学の授業中にZ教員から文房具を隠された状態でZ教員からノートの丸付けを指示されているがその事実が隠されている。

#### 【9月から10月の間で日時は未確定】

Z教員は、授業中にA君が眠っていたので、A君の筆箱や下敷き等を教室の後方に移動した。その後、目を覚ましたA君は筆箱等が見当たらないことで当惑した。

#### 【10月5日（金）文化祭前日の掃除】

文化祭準備に関わって、Z教員と野球部員、女子テニス部員が2年生教室と教室前廊下の清掃担当となっていた。2年3組教室廊下前に集合する際、Z教員は、クラスごとに1列に並ぶよう指示を出し、人数調整を行った後、清掃分担について説明を始めた。その際、A君とB君も周りの生徒同様、1列体操座りで聞いていた。

Z教員が前に立って話している際、A君がB君の方へ下がってきて、B君の足がA君のお尻にあたってきたので二人は笑ってしまった。

※次の[ ]枠内の経緯は、情報が異なるため確定できないことから2つを掲載

#### (教員からの情報)

Z教員：人が説明している時に笑いません。

A君・B君：（とぼけた様子）

再び説明を始めると、また二人が声を出して笑った。

Z教員：何かおかしいん？

A君：別に笑っていません。

Z教員：笑い声が聞こえたから注意しています。笑ったよね？

B君：はい。

二人は列から外され、Z教員は、他の生徒に説明を続けた後、清掃を開始させた。

2年2組廊下前で三人が話をする。

Z 教員：人が説明している時笑ったよね？

A 君：(無言)

Z 教員：笑ったよね？

B 君：はい。

Z 教員：B 君は笑ったって言っとるよ。A 君は？

A 君：笑いました。

Z 教員：じゃあ、何で笑ったん？

A 君：(無言)

B 君：体操座りをしているときに、僕の足がA君のお尻に当たって、モゾモゾしたのでおかしくて笑いました。

Z 教員：笑うには理由があるじゃろ。でも、笑っていい時かどうかは考えたらわかるじゃろ。

B 君：はい、すみません。

Z 教員：じゃあ、B 君は流しの掃除をして。

B 君：(掃除を始める)

Z 教員：B 君は笑ったことも、その理由も正直に言ったよ。A 君は笑った？と聞いてもいいえと言い、笑った理由も答えない。今日は掃除はしなくていいから、部活に行きんさい。

その後、Z 教員はその場を離れた。

(生徒からの情報)

Z 教員：笑ったじゃろ。

A 君：笑っていません。

B 君：(無言)

Z 教員：今、笑う時じゃない。

Z 教員が再び説明を始めると、また笑い声がしたのでA君が笑ったと思い

Z 教員：(A 君・B 君に対して) 笑ったよね？あんたらは除外ね。

二人は列から外された。

Z 教員：教室の人は、人数が二人少なくなり大変だけど頑張ってね。

A 君：今の言葉、めっちゃ嫌味 学校の資料では、「その言葉がB君には嫌味に聞こえた」と記述されている

A 君・B 君は、掃除をしようと思い教室のロッカーのところで笑っていた。

そこへZ 教員が来て、

Z 教員：全く感じが悪いんだよ。ちょっと来い。笑ったじゃろ。

B 君：はい。

Z 教員：なんで笑ったんじゃ。

B 君：A 君の体が当たったからです。

Z 教員：(A 君に対して) これはもう知らん。

B 君は掃除に行き、Z 教員とA 君は何か話していた。

Z 教員がA 君を大きな声で怒っていた。

その後、Z 教員はその場を離れた。

⑤

教員の情報と生徒の情報に大きな相違が生じている

A君は持っていた2本の箒を床に投げつけて2本とも折ってしまった。A君は「やばい」と言い、ガムテープを巻いて教室の掃除ロッカーに入れた。

しばらくして、A君は渡り廊下美術室前の掃除をした。その姿を見つけたZ教員がA君に対して話しかけた。

(教員からの情報)

Z教員：掃除してくれるんだ。

A君：はい。

Z教員：どうして怒られたか、分かる？

A君：正直に言わなかったからです。

Z教員：そうよ。B君は最初から正直に言ったよね。A君は言わなかったよね。そこを怒っとるんよ。

A君：はい。

このあとZ教員は、掃除の仕方をA君に指示し、全員が終わったことを確認して掃除が終了した。

A君とB君、C君は、「ガムテープを張ってもとにもどったけえ、ばれんじゃろ」、「ガムテープついとったらばれるでしょ。どこかに入れ替えたらいんじゃない」、「図書室の箒はいっぱいあるよ」といった会話をした。

#### 【10月6日(土)文化祭当日】

A君は、朝、図書室の箒と教室の箒を入れ替えた。

#### 【10月24日(木)】

V教員が図書室の掃除の生徒から「先生、箒が折れています。」と報告を受けた。「それA君がやりました。文化祭の前の掃除の時、Z先生から怒られて腹を立てて床に投げているのを見ました。私が言ったことは言わないでください。」と言ったため、V教員は、折れた2本の箒を持って2年2組へ行った。ちょうどA君が教室の掃除をしていたため、V教員は、教室掃除担当の担任X教員を廊下に呼び、生徒から聞いた話を伝え、「図書室は2組の掃除担当なので、帰りのホームルームで全員にこの箒のことを知らないか聞いてほしい。」と話した。X教員は、「わかりました。」と言って、壊れた箒を教室のうしろの壁に立てかけた。

しばらくして、A君がX教員にその箒はぼくがやりましたと言ったので、X教員はA君と一緒に図書室前に行った。

(教員からの情報)

A君：すみません。僕がやりました。

V教員：自分から先生に言ったんですか。

A君：はい。

V教員：そうか。正直に言えたんじゃないか。よし。でも、どうしてやったの？

A君：Z先生に怒られて僕だけ許してもらえなくて、腹がたったのでやりました。

V 教員：腹が立ったらいつも物に当たるんですか？  
 A 君：いいえ。  
 V 教員：そうじゃろ。腹が立った時我慢する強さが足りなかったんじゃないの。それから、どうして図書室に折れた箒があったの？  
 A 君：教室にあったら見つかって怒られると思って隠しました。  
 V 教員：そのことどう思う。  
 A 君：いけないと思います。  
 V 教員：今回いけなかったことが2つあるよね。何ですか？  
 A 君：腹が立って物に当たったことと、怒られたくないからといって隠したことです。  
 V 教員：そうよ。やってしまったことはしょうがないので、これから考えて行動しましょう。学校の施設については、教頭先生が責任者なので、箒を壊したことを自分で言いに行きましょう。  
 A 君：はい。わかりました。

⑥

ホームルーム終了後、教頭に報告、謝罪するため、X教員とA君は二人で職員室に出向き、A君は自ら教頭に腹が立って箒を壊したこと、怒られると思って隠したことなど事情を説明した。V教員から報告を受けていた教頭がA君と話をする。

(教員からの情報)

記述が対話形式から文章形式に返送され、「A君がZ教員に笑ったとを注意されたが自分だけが許してもらえなかった」ことが隠されておりニュアンスが変えられている。

陳情書  
(ア)

教頭：箒じゃなく野球部のバットでも投げるのか？  
 A 君：いいえ。 教頭の指導の不自然な始まり  
 教頭：それは大切なものだからだろう。  
 A 君：はい。  
 教頭：箒も公共物で学校では大切なものだ。箒が大切なものだという気持ち  
 ちが足りなかったのではないか。  
 A 君：(無言)  
 教頭：では、注意されたのが野球部の先生でも投げているか。  
 A 君：投げません。  
 教頭：Z先生だったからか。  
 A 君：はい。  
 教頭：それはおかしいだろう。納得できなかつたり、腹が立った気持ちは  
 わかるが、だからといってやっていいことと悪いことがある。今、  
 冷静に考えたら、その時歯止めがかけられたと思わないか。  
 A 君：はい。  
 教頭：どんな理由があっても、歯止めがかけられる人にならなくてはいいけ  
 ない。この件について、どうしたらいいと思うか？  
 A 君：弁償します・・・もうしないようにします・・・。  
 教頭：今の様子では、まだ何をどう反省したか伝わらない。今話をしたこ  
 とを担任の先生と整理して、話せるようならもう一度来なさい。た  
 だし、部活も行きたいだろ。

A君 : はい。

教頭 : 早くしなさい。

X教員とA君は、いったん職員室を出て話をする。箒を折ったこと以上に隠していたことがよくなかったこと、隠していた間ずっと気になっていたことを踏まえて再度職員室へ入室する。

(教員からの情報)

教頭 : 今回の件で何を反省したか自分の言葉で言えるか。

A君 : 腹が立っても箒を投げたりしないようにします。それと箒を隠したままにしていたことです。こんなことがないようにします。

教頭 : そうじゃね。分かった。先生は箒を折ったこともだけど、ついやってしまったことで何日も言えなかったことが問題を大きくしているんだと思う。人間は失敗もするけど、その後どうするかが大切だと思う。黙っていた間どうだった。

A君 : いやでした。

教頭 : だろう。しっかり反省をしているのがよくわかった。自分でいい方法を考えて解決しなさい。箒はいつでもいいし、同じものでなくてもいいので準備ができたなら持ってきなさい。先生は1年生のころからピッチャーで頑張っているあなたを応援している。がんばれよ。

A君 : はい ありがとうございます。

X教員がA君にどう解決するのがいいか聞くと、A君は、Z教員に謝りに行くこと、野球部指導者のW教員(非常勤講師)にも報告すること、箒を自分で持って帰って、親に見せることを話した。X教員は、箒は学校に置いておいていいと言ったが、A君は、持って帰った。

A君は、グラウンドのZ教員の所へ行き、腹を立てて箒を折り、隠していたことを謝罪した。Z教員は、A君が腹を立てたことを知り、怒り方について謝罪した。A君とZ教員は、また怒られると思って言えなかったこと、毎日気になっていたこと、正直に話すことなどを話し、最後に数学と野球をがんばろうと話して別れた。

(教員からの情報)

A君 : 先生、話したいことがあるんですが、今、いいですか？

Z教員 : いいよ。何？

A君 : 先生、実は、文化祭の準備の時に先生に怒られて、腹が立って箒を折りました。そして、その箒を今まで隠していました。

Z教員 : 文化祭の準備の時、笑ったことを正直に言わなかったことで注意をしたよね。その時折ったの？

A君 : はい。

Z教員 : 箒を折らないといけないくらい腹が立ったんだ……。A君が箒を

折るくらいだからかなり腹が立ったんじゃないね。先生の怒り方がいけんかったんじゃないね。そのことは、謝るわ。ごめんね。

A君 : いいえ、そんなことはないです。僕が悪いです。

Z教員 : でも、どうして文化祭の箒の話が今頃？

A君 : 図書室のロッカーに隠していました。

Z教員 : どうして？

A君 : 怒られなくなかったから。

Z教員 : 約3週間、いつ見つかるか思いながら、毎日ドキドキしながら過ごしたんじゃない？

A君 : はい。

Z教員 : その時、すぐに言えんかった？

A君 : はい。

Z教員 : まあ、また私に怒られるかと思って言えんかったんじゃないね。相当怖かったんじゃないね。本当にごめんね。

A君 : いいえ、ぼくが悪いです。

Z教員 : 私でなくても、その時だれか他の先生か友達にでも正直に言えたら良かったね。

A君 : はい。

Z教員 : 失敗はそりゃあするじゃろう。その時は隠すのではなく、これからは正直に言おうね。これも嘘をついたことと一緒やね。

A君 : はい。 同じことよ

Z教員 : ところで、今回の数学のレポートのことだけど……。数学のレポートを頑張っていたね。これからも、数学も野球も頑張ってよ。

A君 : はい。どうもすみませんでした。

A君は、その後部活へ行きW教員に報告した。

(教員からの情報)

A君 : 今日、文化祭準備の掃除のときに箒を折ったことで、指導を受けました。

W教員 : 今日折ったん？

A君 : いいえ、文化祭準備のときです。

W教員 : 何で今日指導を受けるん？

A君 : 折った箒が今日の掃除のときに見つかったからです。

W教員 : 今まで隠しとったん？

A君 : はい。

W教員 : 何で折ったん？

A君 : 注意を受けたときに、腹が立って折ってしまいました。

W教員 : 注意されたのは何でなん？

A君 : 掃除中に笑っていたからです。

W教員 : それは笑うべき時なん？

A君 : いいえ。違います。

W教員：自分でも悪いと分かっていることに対して注意されるのは当たり前なんじゃないんか？

A君：はい。

W教員：じゃあ何でそれに腹が立つん？

A君：(無言)

W教員：何でもいいけ、正直に言ってみ。

A君：笑っていたのは僕だけじゃなく一緒にB君もいたけど、自分だけ残されて怒られたからです。追加されている 残されたからです。

W教員：何で自分だけ残されたん？

A君：B君は笑ったとすぐに言ったけど、自分は言わなかったからです。

W教員：そこを注意されとるんじゃないんか？箒を折ったことがどうじゃらこうじゃらじゃなしに、やっぱり素直に謝れるかどうかじゃないんか。

A君：はい。追加されている

W教員：このまま箒が見つからなかったらどうしとったん？

A君：(無言)

W教員：いつか自分から報告しようと思っとったん？

A君：いいえ。

W教員：じゃあ見つからなかったらそのままだったん？

A君：はい。怒られるのが嫌だったからです。 追加されている

W教員：そのことも一緒じゃないんか。素直に謝れなかったところというのが一緒じゃないんか。 それじゃあ反省も何もできんじゃないか。

A君：はい。A君との会話の繋がりが不自然

W教員：去年の今頃に同じようなことがあって、振り返って、去年の冬、一番頑張ったんじゃないんか？自分がやってきた努力を無駄にするなや。

A君：はい。A君涙目に (削除されている)

W教員：これからどうするん。

A君：大会前なのに自分がこんなことをして、迷惑をかけた野球部に謝りたいです。 追加されている

W教員：大会の前に、エースピッチャーがこういう状態になるというのは、チームにとっては痛い。今回、背番号も無いかもしれんで。 その前に、折れた箒の処理もあるし、家の人にも話さんといけんじゃろ。

A君：はい。A君との会話の繋がりが不自然

W教員：今日はいいから、もう帰れ。

A君：はい。

A君は、そのまま帰宅する。しばらくして、A君が母親とともに箒を2本持って教頭のもとを訪れ謝罪する。教頭は「こんなに早く買ってきてくれたんですか。ありがとうございます。こんなにすぐにあなたのために学校へ来てくれるお母さんはいないぞ、感謝せんと。教頭先生のところは、これで終わりだか

ら、明日から気持ちを切り替えてがんばれ。W先生も、話をされるかもしれないが、先生は絶対あなたのことは見捨てないから、頑張っていこう。」と話し、A君は「はい」と返事をした。

部活動終了後、X教員が、A君とお母さんが来られていますとW教員に伝え、W教員は職員室前に行き3名で話をする。

(教員からの情報)

A母 : 本当にすみませんでした。

A君 : (泣きながら) 今回、大会前なのにチームに迷惑をかけてすみませんでした。もう二度としないので練習に入れてください。

W教員 : それは何の涙なん?

A君 : 前にも同じようなことがあったのに、繰り返してしまって、自分が情けないです。(母も泣かれる)

W教員 : 人間失敗することはある。でも失敗した後が大事なんで。野球でも一緒じゃないん? エラーをしてしまうことはあるけど、そのエラーの後にどうするかをいつもやりようるんじゃろ?

A君 : はい。

W教員 : お母さんを泣かせるようなことはしちゃいけないで。

A君 : はい。

⑦ ※次の[ ]枠内は上記場面の「A母の話」を掲載 情報の取り扱いがとても公平とは思えない

A君 : クラブの皆に迷惑をかけて申し訳ありませんでした。(泣きながら)

W教員 : なんや、その涙は、お前がやったんだろ。その涙の意味を言え。

A君 : 自分が情けない。また前と同じようなことをしてしまった。

W教員 : ここに謝罪に来てくれたお母さんの気持ちが分かるか。お前は、1年前より成長しとるで。次からがんばれ。

A君は車へ行き、W教員と母親とで話をする。W教員は、A君の頑張りを母親に伝え、色々あるかもしれないが一緒に見ていくことを話し別れる。

(教員からの情報)

W教員 : お母さん、大丈夫ですよ。本人頑張っていますよ。今反省してるんで本人の前では言えないですが。

A母 : 本当ですか? (泣かれながら)

W教員 : 去年の冬、本当に一番頑張ったのは彼ですから。またこの冬越えたら変わりますよ。

A母 : ありがとうございます。

W教員 : 本当によく頑張っていますよ。

A母 : そう言っていたただけで・・・。

W教員 : まあ、今ちょっとへこんでいますし、いろいろとあるかもしれませんが一緒に見ていきましょう。今日はありがとうございました。

A母 : 本当にすみませんでした。失礼します。



※次の[ ]枠内は上記場面の「A母の話」を掲載 情報の取り扱いがとても公平とは思えない

A母 : 大きな大会を前に、こんなことで申し訳ありませんでした。

W教員 : お母さん、前回とは違います。試合はA君の肩にかかっています。  
期待をしています。

陳情書  
(ア)

⑧ これまでかなり指導がなされたこと、別室指導に値しないくらいA君が反省していることを踏まえて、教頭の判断でこの日特別な指導はしないこととなった。

⑨ なお、学校が行った生徒への面談から、この事件以降に、A君の「死にたい」という発言があったとの証言がある。

いつどこで話したのか  
詳しい調査が必要  
(重要)

指導記録では、「半日の別室な指導と反省文を書かせることとした。」と記述されており、半日間の特別な指導は行われている。報告書の記述が間違っている。

【10月25日(木)】

朝、学年で相談し「振り返りは必要だろう。」ということになり、V教員がA君を教室から相談室に移動させ、「これからの学校生活をするうえで、自分を振り返ることは必要だから振り返りができるまで頑張ろう」と話し、A君は反省文を書いた。1校時は担任のX教員が支援しながら記述させた。2・3校時の休憩時間にA君の様子を確認するが、書いていなかった。4校時終了後、Z教員とX教員とで振り返りができたことを確認し、「よく頑張ったね。」と声をかけた。A君は給食を食べるために教室に戻った。

②1

A君は、午後からは普通どおり授業を受け、通常の部活動の練習を行った。

【10月26日(金)】

背番号が配られただけで試合に出場するメンバーは発表されていない記述が誤っている。

①1

A君は、通常どおり生活し、真面目に部活練習も行った。部活終了後のミーティングで試合に出場するメンバーが発表された。背番号を呼ばれる前、A君は「もう俺は終わった。」と言っていた。背番号18番(17人しかいない)をもらった時、A君は「意外ともらえた。」とびっくりしていた。しかし、家では落ち込んでいた様子であった。

「アンケートでは①はあげんと言われてショックを受けていた」という証言があったが、記述されておらず片面的な情報の記述となっている。

陳情書  
(ア)

【10月27日(土)】

①2

県議長杯でA君は背番号18番をつけ、2試合目に先発投手として出場し、完投する。A君は日誌に「学校生活のことでチームに大きな迷惑をかけた。それでも、チームは、ぼくに背番号をくれて、練習をして、試合にもださしてくれた。チームに感謝しなければならない。その感謝は、これからの学校生活や部活で示していこうと思う。」と記入した。

日誌が参考資料として記述されていない。また、遺族が提出した資料も参考とされていない。